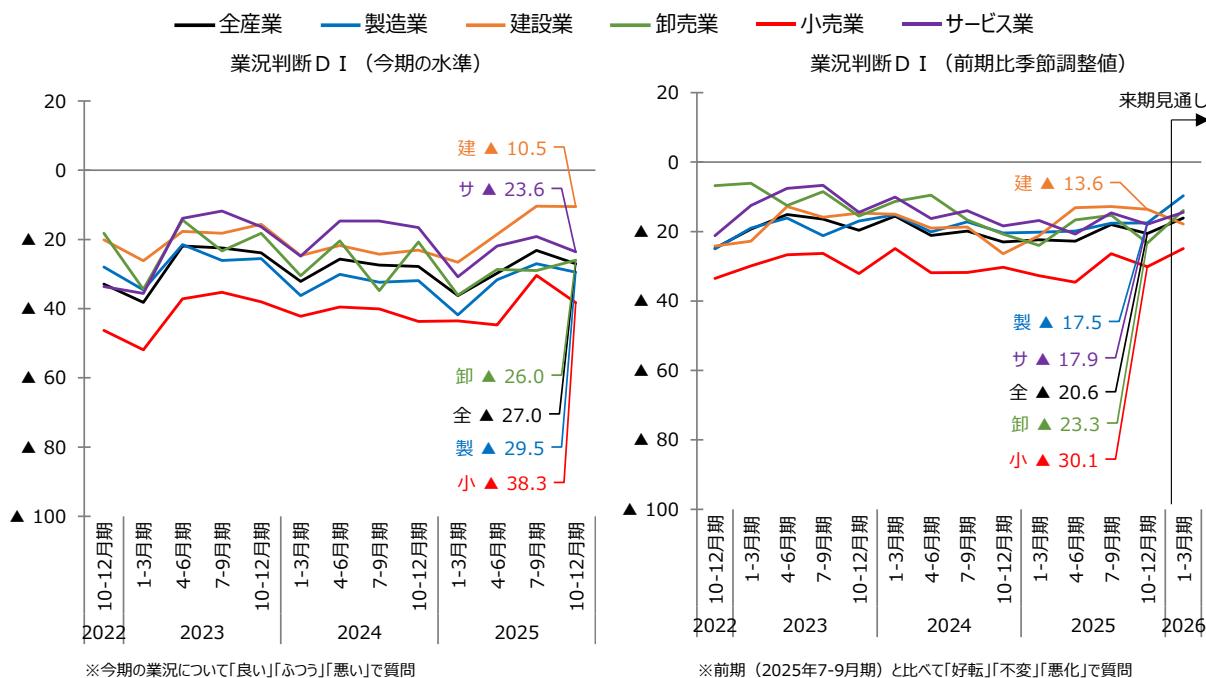


第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 東北

Be a Great Small.
中小機構

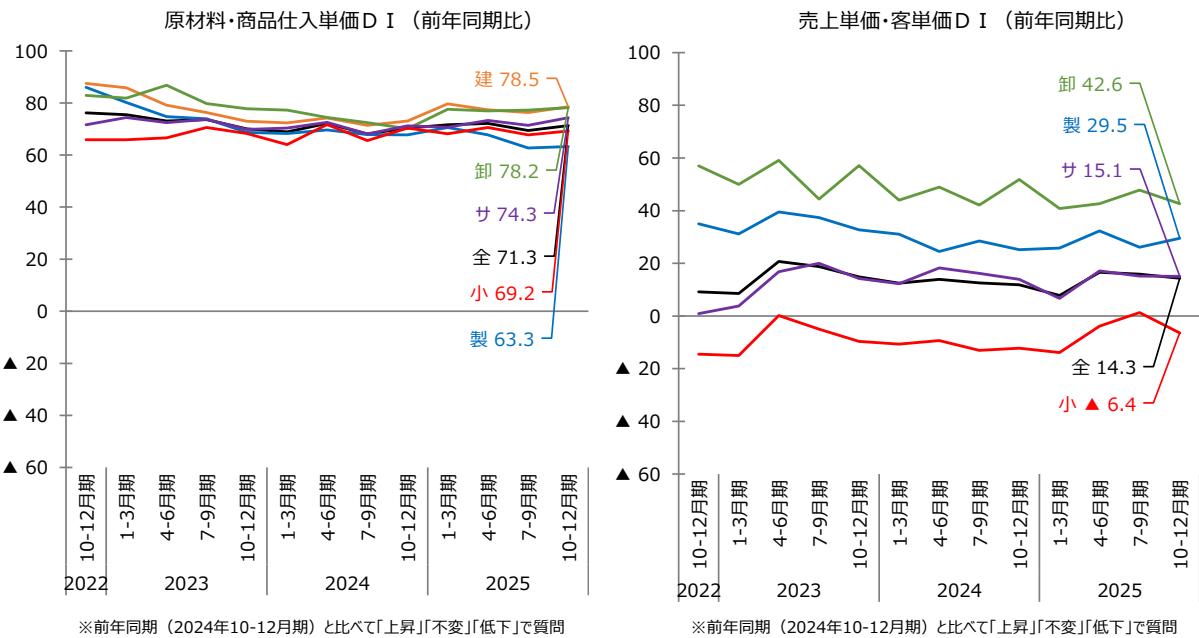
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より3.8ポイント減の▲27.0と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.9ポイント増の71.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.6ポイント減の14.3と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、東北：1,824企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

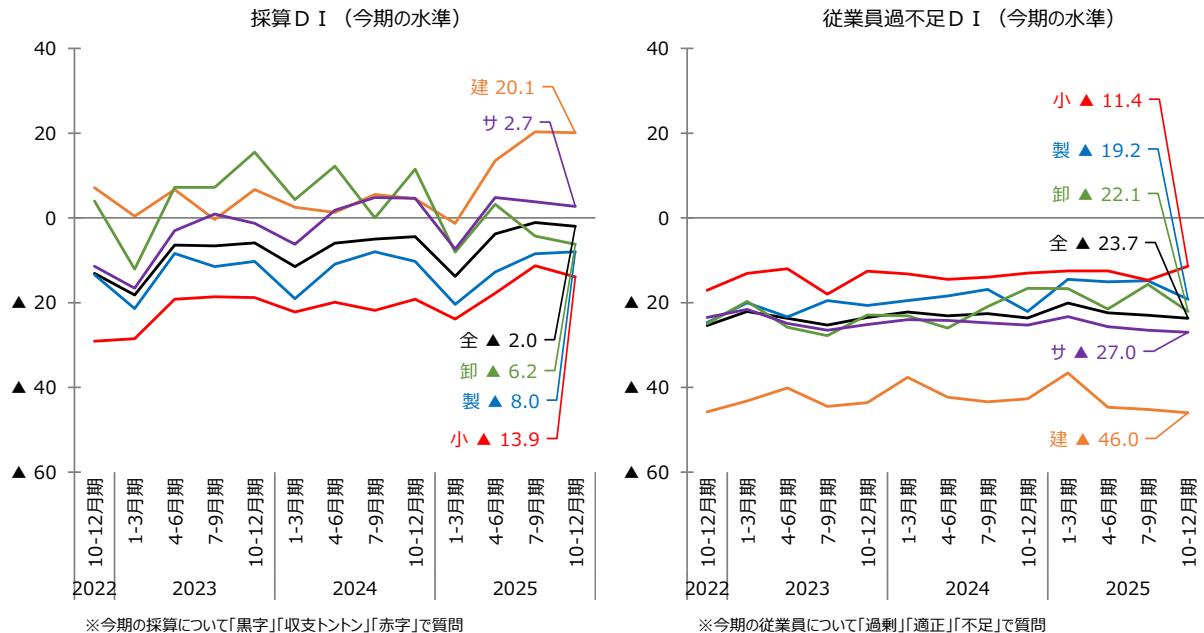
第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 東北

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.9ポイント減の▲2.0と3期ぶりにやや低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業、建設業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の▲23.7と3期連続してやや低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、製造業、建設業、サービス業で低下した。



5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	木材製造業の販売対象を一般住宅だけでなく、より広範囲での販売にいかに早く変えられるかがポイントになると見えるが、その転換時を見つけていく業種である。業界がどんどん小さくなっている事が心配。	製造業	一般製材業
	建築確認が厳しくなり、新築受注件数が減少している。	建設業	木造建築工事業
	農業従事者の減少及び気温の変化、熊等野生動物の食害により入荷数量が減少。加えて、消費人口の減少と、市場経由率の低下、輸送コスト増等、青果物卸売業界を取り巻く環境は厳しい。	卸売業	野菜卸売業
	大手飲料メーカーのシステム障害により商品供給が停止となり、一部商品が品切れという現状で、この期間の売り上げが減少している。	小売業	食料品スーパー・マーケット
	A.Iによる自動作曲が進展し驚きを感じる一方、アーティスト制作とは異なる領域であり現時点で大きな影響は感じていない。国際的な協働が容易となる一方、著作権侵害時の負担増を懸念している。	サービス業	その他の技術サービス業
見通し	最低賃金の上昇、歯止めのかからない原材料価格の上昇、設備の老朽化。資金不足のため、どれも心配である。それに加えて紙媒体の需要の下落もあり、先行きが全く見通せない。	製造業	オフセット印刷業（紙に対するもの）
	物価の高騰、人件費の上昇など、経費の支出がかさむ中、請負工事の増加が見込めない状況である。よって、来期の業況は悪化するとの見通しと判断した。	建設業	一般土木建築工事業
	輸送費や保管料、支払手数料等の上昇により厳しい経営状況が続いた。これから12月の繁忙期に向け必要経費を確保できる価格交渉を行い、業績確保を目指す。	卸売業	生鮮魚介卸売業
	仕入単価の上昇、光熱費、運搬費が上昇する中、全国統一の小売価格を独自に変更できないため、粗利確保への不安がある。	小売業	鮮魚小売業
	売上が増えても人件費、燃料費、修繕費等の高騰により利益増は見通せない。	サービス業	ごみ収集運搬業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)